

(提案20)

公開シンポジウム「フランス・日本シンポジウム：エネルギーの将来のための  
先端材料科学 エネルギー生産・貯蔵のための高信頼性・耐久性・安全性の材  
料に向けて」の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 共 催：在日フランス大使館、フランス科学アカデミー
3. 日 時：平成26年6月30日（月）～7月1日（火）
4. 場 所：日本学術会議講堂

5. 開催趣旨：

エネルギー政策転換に向けた国際的な動向、フランスと日本は最適なエネルギーミックスを模索している。従来型エネルギーと代用エネルギーを適切に組み合わせたエネルギーミックスにより、環境保全を確保しながらエネルギー需要を満たす必要がある。安全、かつ高い競争力と持続性を有する最適なエネルギーミックスを実現するには、(1) 熱エネルギー利用技術の改良、及び(2) 信頼性の高い再生可能エネルギーの開発・集配・貯蔵、という2つの方向に向けた研究およびイノベーションの努力が必要となる。

こうしたエネルギー技術には、極端な条件下（高圧、高温、及び腐食性環境）でも使用可能かつ長寿命の高効率材料とともに、高信頼性・安全性の構造物や施設が要求される。研究開発活動の命運は、環境に配慮するという制約にも適応でき、持続可能な技術面でのソリューション（解決策）につながる新規材料の設計にかかっている。

今回の第一回フランスー日本シンポジウムでは、(1) エネルギー政策転換という状況下におけるフランスと日本のエネルギー政策、(2) 従来型エネルギーおよび再生可能エネルギー技術の将来にとって要ともなる先端材料、という2のテーマに関する議論を行うべく、エネルギー及びエネルギー関連材料の専門家を招へいする。

次 第：[6月30日（月）]

開 会

開会挨拶：

大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長）

調整中（在日フランス大使館）

家 泰弘（日本学術会議第三部会員・副会長、東京大学物性研究所教授）

### グローバルな問題とエネルギー革命

山田 興一（独立行政法人科学技術振興機構低酸素社会戦略センター副センター長、東京大学総長室顧問）

Prof. Yves Bréchet, Académie des Sciences, Institut de France

Dr. Jan Van Der Lee, EDF/Materials Ageing Institute

### 将来の原子力エネルギーのための先端材料

Dr. Clara Desgranges, CEA Saclay

Prof. Michel Vilasi, University of Lorraine

庄子 哲雄（日本学術会議第三部会員、東北大学未来科学技術共同研究センターフロンティア研究イニシヤティブ教授）

Dr. Nicolas Devictor, ASTRID programme

### 再生可能エネルギーのための先端材料

Prof. Ronan Stephan, Alstom

佐々木一成（九州大学工学研究院機械工学部門教授）

Dr. Patrick Ginet, Air Liquide

斎藤健一郎（JX 日鉱日石開発株式会社中央技術研究所上席フェロー）

近藤 道雄（独立行政法人産業技術総合研究所上席コーディネータ）

Dr. Jean-Pierre Joly, INES

瀬川 浩司（日本学術会議特任連携会員、東京大学先端科学研究センター教授）

[7月1日（火）]

### 電力貯蔵と給配電のための先端材料

水野 哲孝（東京大学工学部応用化学専攻教授）

Prof. Patrice Simon, CIRIMAT, University of Toulouse III

山口作太郎（中部大学教授）

Prof. Nouredine Hadjsaid, Grenoble INP

### 熱エネルギーのための先端材料：廃熱発電

Dr. J.M. Brossard, Veolia Environment

鈴木 稔（大阪ガス株式会社商品技術開発部シニアリサーチャー）

川原 雄三（第一高周波工業株式会社事業統括部兼技術統括部専門部長）

**Dr. J.Y. Guedou, SAFRAN**

富田 和男（三菱重工業株式会社原動機事業本部新エネルギー事業推進部開発一課主任）

**Dr. Patrick Ledermann**（代理講演者確認中）, **Alstom**

村上 秀之（物質・材料研究機構環境・エネルギー材料部門主任研究員）

パネル討論・総括セッション

**Prof. Yves Bréchet, Académie des Sciences, Institut de France**

**Dr. Kaddour Raissi, Embassy of France**

笠木 伸英（日本学術会議連携会員、独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー）

家 泰弘（日本学術会議第三部会員・副会長、東京大学物性研究所教授）

## (提案 2 1)

日本学術会議主催学術フォーラム「初等中等教育における海洋教育の役割と課題－海洋立国を担う若手の育成に向けて－」の開催について

1. 開催日時 平成 26 年 8 月 1 日 (金) 13:00～17:30

2. 開催場所 日本学術会議講堂

3. 開催趣旨

海洋基本計画では、海洋教育の推進がうたわれているが、必ずしも多くの国民が、海に親しみ、海を理解しているとはいえない。「海とともに生きる」若者を育てることは、10 年、20 年後の日本の在り方を決定する必須の課題である。この課題の解決には、海洋研究の充実が急務であるが、その一方で、初等中等教育における海洋教育の整備と強化が必要である。

本フォーラムは、海洋科学および海洋教育の専門家を演者とし、参加者には初等中等教育の現場や学術研究の現場並びに産業界を想定している。それによって、海洋教育の議論を進め、日本の未来を拓く海洋教育の重要性を共有する。

4. 次 第 (予定)

○コーディネーター

岸本 健雄 (日本学術会議第二部会員、東京工業大学大学院生命理工学研究科教授)

窪川かおる (日本学術会議連携会員、東京大学理学系研究科附属臨海実験所・特任教授)

○演題・演者等

(1) なぜ、海洋教育か

佐藤 学 (日本学術会議第一部会員、学習院大学教授)

(2) 海洋基本計画における海洋教育の整備と今後の課題

寺島 紘士 (海洋政策研究財団常務理事)

(3) 初等中等教育における水産・海洋教育

瀧田 雅樹 (文部科学省初等中等教育局教科書調査官)

- (4) 海洋の生物多様性の理解を教育現場へ  
白山 義久（日本学術会議連携会員、（独立行政法人海洋研究開発機構理事））
- (5) 防災海洋教育をすべての学校で  
堺 茂樹（岩手大学学長）
- (6) パネルディスカッション  
「海洋立国を目指すには海洋教育をどう進めるべきか」  
佐倉 統（日本学術会議連携会員、東京大学情報学環教授）  
天野 未知（東京都葛西臨海水族園教育普及課）  
保坂 直紀（東京大学海洋アライアンス特任教授）  
川井 浩史（日本学術会議連携会員、神戸大学教授）  
窪川かおる（日本学術会議連携会員、東京大学理学系研究科特任教授）

## (提案 2 2)

日本学術会議主催学術フォーラム「東日本大震災・阪神淡路大震災等の経験を国際的にどう活かすか」の開催について

1. 主催 日本学術会議
2. 共催 東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会
3. 後援 UN-ISDR, WFE0, 日本工学会、国土交通省、外務省、世界銀行等（予定）
4. 開催日時 平成 26 年 11 月 29 日（土）10:00～17:30
5. 開催場所 日本学術会議講堂

### 6. 開催趣旨

国連防災世界会議（平成 27 年（2015 年）3 月仙台市）、世界工学会議（平成 27 年（2015 年）11 月京都市）に先立ち、わが国の防災・減災に関連する諸学会、および社会経済や医学等の幅広い分野の学者が集まり、東日本大震災・阪神淡路大震災をはじめとするこれまでの自然災害から得られた知見を、世界の防災・減災にどう活かしていくべきかを、分野の壁を越えて議論する。

本学術フォーラムは、日本学術会議土木工学・建築学委員会と委員会のメンバーが主導してきた「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」の 28 学会が共同で主催する。東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会は、東日本大震災を機に学会の壁を越えた連携が重要であるとの認識のもとに関連学会が集まったものであり、平成 23 年 12 月より平成 25 年 12 月までに、シンポジウムと学術フォーラムを合わせて 9 回開催し、学会間の連携を深めてきた。

日本学術会議土木工学・建築学委員会および「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」は、これまでの学際連携の実績をもとに、学術フォーラムを通じて、今後予想される世界各国の自然災害に備えるために、これまでの日本の経験をどう国際的に活かしていくべきかについて議論する。

日本学術会議は国際交流に力をいれており、国連防災世界会議や世界工学会議では重要な役割を務めている。学術フォーラムの開催によって、多くの学会にこれらの国際会議への関心と参加意欲の向上が期待される。

### 4. 次 第（予定）

10：00－10：20 趣旨説明・挨拶

司会： 目黒 公郎（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授）

趣旨説明 本フォーラムの趣旨、学協会連絡会の紹介

和田 章（日本学術会議第三部会員、東京工業大学名誉教授）

10：20－12：20 講演

講演1：国連防災世界会議について

大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長）

講演2：世界工学会議について

依田 照彦（日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院創造理工学部教授）

講演3：災害に強い国土と環境

嘉門 雅史（日本学術会議第三部会員、京都大学名誉教授）

講演4：地球気候変動と防災・減災

小松 利光（日本学術会議第三部会員、九州大学名誉教授）

講演5：未定

日本学術会議第一部会員

講演6：未定

日本学術会議第二部会員

13：20－17：30 ディスカッション

「東日本大震災・阪神淡路大震災等の経験を国際的にどう活かすか」

コーディネータ：

米田 雅子（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学特任教授）

パネリスト：

「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」に属する各学会の代表者

環境システム計測制御学会

空気調和・衛生工学会

こども環境学会

砂防学会

地域安全学会

地理情報システム学会

地盤工学会

土木学会

日本応用地質学会

日本火災学会

日本活断層学会

日本機械学会

日本計画行政学会

日本建築学会

日本原子力学会

日本コンクリート工学会

日本災害情報学会  
日本集団災害医学会  
日本地震工学会  
日本造園学会  
日本都市計画学会  
農業農村工学会

日本自然災害学会  
日本地震学会  
日本地すべり学会  
日本地域経済学会  
日本水環境学会  
廃棄物資源循環学会

(提案 23)

公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2014 川内村ワークショップ」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同  
東日本大震災に係る食料問題分科会、農学委員会・食料科学委員会合同  
農業情報システム学分科会、同農芸化学分科会、農学委員会農業経済学  
分科会、食料科学委員会水産学分科会、同畜産学分科会

2. 後 援：日本農学アカデミー、日本水産学会、日本畜産学会、日本農業経済学会、  
日本農芸化学会、農業食糧工学会、福島県立医科大学、長崎大学、東京  
大学大学院農学生命科学研究科アグリコクーン、東京農工大学、北里大  
学

3. 日 時：平成 26 年 7 月 4 日（金） 13：00～17：30

4. 場 所：福島県川内村コミュニティーセンター

5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北太平洋沖大地震から 3 年が経過した。巨大津波の直撃を受けた東京電力福島第一原子力発電所は全電源喪失の事態に陥り、大量の放射能を広範囲に拡散させた。この漏出した放射能は森林、土壌、水域を汚染し、食料資源の生産現場に大きな被害をもたらしたが、未だに復旧・復興への道のりは遠い。特に陸域では住民の帰還に大きな制限が課せられ、食料生産活動のみならず、関連するコミュニティーにも不安と混乱が続いている。一方、水域でも福島沖を漁場とする操業では自主規制が続いており、本格的な漁業再開には大きな障害となっている。そこで、本フォーラムでは、食料生産現場の放射能汚染の現状を踏まえながら、住民帰還や生産再開までの道のりとその後の課題について、実際の生産者や事業者を交えながら議論する。

7. 次 第：

13:00～13:10 開会の挨拶

渡部 終五\*（日本学術会議第二部会員、北里大学海洋生命科学部教授）

13:10～13:30 川内村の現状

遠藤 雄幸（川内村村長）

13:30～13:50 農作物の放射能汚染と今後の課題（仮）

- 万福 裕造（福島県相馬郡飯舘村復興対策課研究員）
- 13:50～14:10 水産物の放射能汚染と今後の課題  
藤田 恒雄（福島県水産試験場漁場環境部長）
- 14:10～14:30 畜産物の放射能汚染と今後の課題  
眞鍋 昇\*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
- 14:30～14:50 農業従事者からの報告  
鈴木 正美（矢祭町農業法人でんぱた取締役）
- 14:50～15:00  
休憩
- 15:00～15:20 信頼の獲得を目指した生協の取組み（仮）  
野中 俊吉（コープふくしま専務理事）
- 15:20～15:40 農作物の放射性セシウムの取り込みについて  
二瓶 直登（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）
- 15:40～16:00 外国の目からみた放射能汚染の現状  
マイケル・オーエン
- 16:00～16:20 福島県の放射能汚染と健康リスク  
丹羽 太貫（福島県立大学特任教授、国際放射線防護委員会委員）
- 16:20～17:20 総合討論  
司会 中嶋 康博\*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
- 17:20～17:30 閉会の挨拶  
澁澤 栄\*（日本学術会議連携会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）

8. 関係各部の承認有無：第二部承認

\*印の講演者等は、主催分科会委員

(提案 24)

公開シンポジウム「第8回基礎法総合シンポジウム〈若者〉と法」の開催について

1. 主催：日本学術会議法学委員会  
基礎法学系学会連合（日本法社会学会・日本法哲学会・比較法学会・法制史学会・比較家族史学会・民主主義科学者協会法律部会）
2. 日程：平成26年7月5日（土）13：00～18：00
3. 場所：日本学術会議講堂（地下鉄千代田線乃木坂駅前）
4. 分科会の開催：予定なし
5. 開催趣旨  
基礎法学系学会連合は、日本学術会議の平成17年改組を機に、旧基礎法学研連及び比較法研連を構成していた6学会が、日本学術会議と学会との結びつきを維持するとともに、学会間の学術的連携を図るために結成されたもので、年1回、日本学術会議法学委員会との共催のもとで、法学上の基本問題を取り上げた総合シンポジウムを開催してきた。今回は、第8回目のシンポジウムとして「〈若者〉と法」をテーマに実施する。
6. 次第
  - 13:00-13:05 開会挨拶  
小森田秋夫\*（日本学術会議第一部会員、神奈川大学法学部教授）
  - 13:05-13:20 企画趣旨説明  
本山 敦（立命館大学法学部法学科教授）
  - 13:20-15:45 第1部  
司会 森 謙二（茨城キリスト教大学文学部文化交流学科教授）、  
新田 一郎（東京大学法学部政治学研究科教授）  
報告1 若者の縁辺化をどうとらえるか  
中西新太郎（横浜市立大学国際総合科学部国際教養学系社会関係論コース教授）  
報告2 労働関連法制  
脇田 滋（龍谷大学法学部政治学科教授）  
報告3 「大人」と「子ども」の境界—わかたれ、わかたれること  
土屋 明弘（岩手大学教育学部学校教育科准教授）
  - 14:50-15:00 休憩
  - 15:00-15:30 報告4 若者に公正な社会  
宇佐美 誠（京都大学大学院地球環境学堂教授）

15:30-15:45 コメント  
宮本みち子（日本学術会議第一部会員、放送大学教授）

15:45-16:05 休憩

16:05-17:55  
第2部 総合討論  
司会 森 謙二（茨城キリスト教大学文学部文化交流学科教授）  
新田 一郎（東京大学法学政治学研究科教授）

17:55-18:00 閉会挨拶  
井上 達夫\*（日本学術会議第一部会員、東京大学法学政治学研究科教授）

7. 関係各部の承認の有無：第一部承認

（\*印の講演者は主催委員会委員）

## (提案 25)

公開シンポジウム「高齢者が安心して暮らせる健康コミュニティを目指して」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会
2. 共 催：日本老年学会
3. 日 時：平成 26 年 7 月 5 日(土)13:00～16:00
4. 場 所：桜美林大学大学院 四谷キャンパス
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨

多くの高齢者は生活習慣病等に罹患している場合が多いが、それらを完治することは不可能である。生活習慣病の悪化を予防し、自立した日々の生活が実践できるように、在宅医療に関わる医療保健専門職が連携して予防的視点で高齢者を支援するシステムづくりが必要である。また生活の場の中で高齢者ケアを支援していくために、行政機関への働きかけを含めた社会システムのあり方、地域の特性を踏まえて医療介護福祉部門が協働する地域包括ケアシステムの構築が必要である。これらシステムの発展には I C T をどう活用するかも課題である。

そこで高齢者に関わる医療・社会・生活・福祉・情報をキーワードに関連する研究者が一同に会して、虚弱や疾病のある高齢者の療養生活を支え、QOL 向上をめざすケア活動の推進により、健康な高齢者を含めて、すべての高齢者が健康で安心して生活できるコミュニティのあり方を討議し推進することが開催趣旨である。

### 7. 次 第

13：00-13：10 挨拶と趣旨説明

小西美智子\*（日本学術会議連携会員、広島大学名誉教授）

13：10-16：00 シンポジウム

司会：

安村 誠司\*（日本学術会議連携会員、福島県立医科大学医学部教授）

市川 哲雄\*（日本学術会議連携会員、徳島大学ヘルスバイオサイエンス研究部教授）

13：15-13：45 在宅医療の立場から

飯島 勝矢（東京大学高齢社会総合研究機構准教授）

13：45-14：15 高齢者主体の介護予防のまちづくり

植木 章三（東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科教授）

14:15-14:45 ICTを活用したコミュニティづくり

直井 道子\*（日本学術会議連携会員、桜美林大学大学院老年学研究科特任教授）

小川晃子（岩手県立大学社会福祉学部教授）

14:15-15:15 地域包括ケアの推進を目指して

中野いく子（日本学術会議連携会員、桜美林大学加齢・発達研究所客員研究員）

15：15-15：50

シンポジストおよび参加者と討議

15：50-16：00 総括

安村 誠司\*（日本学術会議連携会員、福島県立医科大学医学部教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（\*印の講演者等は主催分科会委員）

## (提案 26)

### 公開シンポジウム「安全工学シンポジウム 2014」の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
2. 共 催：日本建築学会（幹事学会）、安全工学会、化学工学会、火薬学会、計測自動制御学会、自動車技術会、静電気学会、地域安全学会、電気学会、電気化学会、電気設備学会、電子情報通信学会、土木学会、日本化学会、日本火災学会、日本機械学会、日本技術士会、日本計算工学会、日本原子力学会、日本高圧力技術協会、日本航空宇宙学会、日本材料学会、日本シミュレーション学会、日本信頼性学会、日本心理学会、日本船舶海洋工学会、日本鉄鋼協会、日本人間工学会、日本燃焼学会、日本非破壊検査協会、日本溶接協会、日本冷凍空調学会、廃棄物資源循環学会
3. 日 時：平成 26 年 7 月 10 日（木）～ 7 月 11 日（金）
4. 場 所：建築会館（東京都港区芝 5 丁目 26 番 20 号）
5. 分科会の開催：該当なし

#### 6. 開催趣旨：

わが国における安全に関する学際的なシンポジウムとして学術会議主催で 40 年以上にわたり継続して実施されてきている。毎年幹事学会が順番で担当し実行委員会を組織しテーマを決めて実施する。平成 26 年度は、第 44 回として日本建築学会が幹事学会となり企画・運営を行い、「サステナブルな社会の安全・安心」のテーマのもと開催される。共催学会名にみられるように多分野の研究者の発表の場であり、意見交換の場ともなっている。異分野間での安全に対する取り組みの差異、あるいは共通する理念について有意義な意見交換が期待でき、学術会議総合工学委員会、安全・安心・リスク検討分科会で進めている「安全の理念」、「安全目標」、「交通事故ゼロの達成」の検討成果の広く一般への発表がなされ、多分野の専門家からの意見集約も期待できる。

7. 次第：

第1日目：7月10日（木）

**挨拶 12:30～12:40**

日本学術会議総合工学委員長

小長井 誠（日本学術会議第三部会員、東京工業大学大学院理工学研究科教授）

安全工学シンポジウム 2014 実行委員長

山田 常圭（総務省消防庁消防研究センター上席研究官）

**特別講演 12:40～13:10**

「サステナブルな社会の建築・都市像－震災の教訓をふまえて－」

吉野 博（日本学術会議第三部会員、日本建築学会会長、東北大学名誉教授、秋田県立大学客員教授）

司会：山田 茂

**パネルディスカッション 13:10～14:20**

PD-1「サステナブルな社会の安全・安心」

コーディネーター・司会：

山田 常圭（総務省消防庁消防研究センター上席研究官）

**オーガナイズドセッション 9:30～12:00**

OS-1 自動運転・高度運転支援システムの最新動向

永井 正夫\*（日本学術会議連携会員、一般社団法人日本自動車研究所代表理事・研究所長、東京農工大学客員教授）

OS-1-1 国土交通省における自動運転・高度運転支援システムへの取り組み

坂井 康一（国土技術政策総合研究所主任研究官）

OS-1-2 自動運転の国際動向

天野 肇（特定非営利法人 ITS-Japan 専務理事）

OS-1-3 自動運転・運転支援とドライバーの役割

稲垣 敏之（筑波大学教授）

OS-1-4 高度運転支援システムのための自動化技術

金光 寛幸（トヨタ自動車（株）第3制御システム先行開発室長）

OS-1-5 自動運転・高度運転支援システムの最新動向～日産自動車～

福島 正夫（日産自動車環境・安全技術渉外部担当部長）

OS-1-6 海外メーカーの動向

未定

**オーガナイズドセッション 14:30～16:00**

OS-2 産業安全の向上のための現場保安力の強化

田村 昌三（東京大学名誉教授）

- 0S-2-1 現場保安力と体系化  
田村 昌三（東京大学名誉教授）
- 0S-2-2 現場保安力の評価  
若倉 正英（独立行政法人産業技術総合研究所安全科学研究部門顧問）
- 0S-2-3 現場保安力強化のための BP 事例集と活用  
村岡 正章（電気化学工業㈱部長）
- 0S-2-4 現場保安力強化に向けた我が社の安全活動（1）  
竹田 義信（コスモ石油㈱技術部管理 Gr.）
- 0S-2-5 現場保安力強化に向けた我が社の安全活動（2）  
南川 忠男（AGC 旭硝子㈱千葉工場 環境安全部保安管理グループ主席）

**オーガナイズドセッション 14:30～16:50**

- 0S-3 木質構造物の火災時における安全性  
平島 岳夫（千葉大学大学院・工学研究科 准教授）
- 0S-3-1 木質耐火構造部材の開発における最近の動向  
原田 寿郎（独立行政法人森林総合研究所構造利用研究領域長）
- 0S-3-2 火災加熱を受ける木質構造部材の温度解析  
抱 憲誓（鹿島建設研究員）
- 0S-3-3 木質構造部材の火災時耐力  
平島 岳夫（千葉大学大学院・工学研究科 准教授）
- 0S-3-4 軸組木造土壁構法による伝統木造の耐火性  
安井 昇（桜設計集団一級建築士事務所代表）
- 0S-3-5 木造 3 階建て学校の火災実験  
鈴木 淳一（独立行政法人建築研究所防火研究グループ 研究員）
- 0S-3-6 土木構造物への木材利用と火災安全に関する課題  
佐々木貴信（秋田県立大学教授）

**オーガナイズドセッション 9:30～11:30**

- 0S-4 東日本大震災と地震火災および津波火災  
廣井 悠（名古屋大学減災連携研究センター准教授）
- 0S-4-1 主旨説明（本セッションの問題意識）  
北後 明彦（神戸大学教授）
- 0S-4-2 東日本大震災時における地震火災と津波火災の調査概要  
廣井 悠（名古屋大学減災連携研究センター准教授）
- 0S-4-3 東日本大震災における危険物施設被害  
西 晴樹（総務省消防庁消防研究センター主任研究官）
- 0S-4-4 非木造建築物の火災被害  
近藤 史朗（清水建設株式会社設計・プロポーザル統括）

0S-4-5 防火関連設備の被害

村岡 宏 (大林組技術本部主任研究員)

0S-4-6 「津波火災に対応した津波避難建築・都市の計画手法」研究会の取り組み

西野 智研 (神戸大学助教)

**オーガナイズドセッション 14:30~17:00**

0S-5 繰り返される事故～事故防止のあり方を考える～

加山 宏 (事故防止のあり方を考える会、東武伊勢崎線竹ノ塚踏切事故遺族)

0S-5-1 繰り返される事故～事故防止のあり方を考える～

加山 宏 (東武伊勢崎線竹ノ塚踏切事故遺族)

0S-5-2 都市における踏切事故

加山 圭子 (東武伊勢崎線竹ノ塚踏切事故遺族)

0S-5-3 脳震とうと繰り返し脳損傷

小林 恵子 (全国柔道事故被害者の会)

0S-5-4 未解決事故の原因を究明する - 事故例からのアプローチ -

一杉 正仁 (滋賀医科大学教授)

0S-5-5 事故調査の目的と社会的評価

米倉 勉 (弁護士)

0S-5-6 「組織罰」についての考察

本江 彰 (日本ヒューマンファクター研究所研究主幹)

0S-5-7 再発防止から未然防止へ

高杉 和徳 (製品安全コンサルタント)

**オーガナイズドセッション 9:30~11:30**

0S-6 ばらつき・不確かさを考慮した各種材料の実験力学・計算力学の研究動向

高野 直樹 (慶應義塾大学教授)

0S-6-1 自動車構造部材適用を目指した FRP の現状と課題

大谷 章夫 (岐阜大学特任准教授)

0S-6-2 シックス・シグマとタグチメソッドに基づくロバスト設計手法の違いについて

工藤 啓治 (ダッソー・システムズ (株) コンサルタント)

0S-6-3 スモールパンチ試験による蒸気タービン機器の寿命診断手法の開発

鈴木 悠介 (株式会社東芝電力システム社)

0S-6-4 画像相関法による各種材料の 3 次元変形・ひずみ計測

宮下進太郎 (丸紅情報システムズ株式会社)

0S-6-5 AE 法と延性破壊条件式を用いた高温配管用炭素鋼の破壊評価

笠井 尚哉 (横浜国立大学准教授)

**オーガナイズドセッション 16:00～18:00**

0S-7

安全・安心・安定な社会づくりに向けた地域継続計画

白木 渡（香川大学教授）

0S-7-1 （仮）災害に備えたコンパクトな「お役立ちレシピ（リーフレット）」の作成  
について

須藤 英明（鹿島建設部長）

0S-7-2 仮）香川地域継続検討協議会の取り組み

磯打千雅子（香川大学特命准教授）

0S-7-3 仮）地域での防災教育の実践の試み

一井 康二（広島大学准教授）

0S-7-4 福祉施設の事業継続計画（BCP）作成と人材育成

鍵屋 一（法政大学講師）

0S-7-5 仮）企業BCPの先進事例

中澤 幸介（リスク対策.com編集長）

その他、一般セッションを9:40～18:10に開催。

第2日目：7月11日（金）

**特別講演1 13:00～13:40**

調整中（西日本旅客鉄道株式会社）

「（仮）JR西日本における安全の取り組み」

司会：鍵屋 浩司（独立行政法人建築研究所防火研究グループ主任員研究員）

**特別講演2 13:40～14:20**

山海 嘉之（筑波大学教授）

「（仮）サステナブルな社会のロボットスーツと安全・安心」

司会：鍵屋浩司（独立行政法人建築研究所防火研究グループ主任員研究員）

**オーガナイズドセッション 14:30～17:00**

0S-8 原子力発電所の自然災害等影響評価への取り組み

糸井 達哉（東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻 准教授）

0S-8-1 原子力安全における外部ハザードの影響評価の重要性（福島第一事故の経験を踏まえて）

調整中

0S-8-2 地震リスク評価法

調整中

0S-8-3 耐津波設計法

調整中

0S-8-4 津波リスク評価法

調整中

0S-8-5 火災リスク評価法

調整中

0S-8-6 火山影響評価法

調整中

オーガナイズドセッション 15:20～17:10

0S-9 火災時の避難安全のバリアフリー

長谷見雄二（日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院教授）

0S-9-1 （仮題）建築学会「避難安全のバリアフリーデザイン特別委員会」の取り組み

関澤 愛（東京理科大学大学院教授）

0S-9-2 避難行動能力から見た病院外来部門の在館者実態調査

新井有紀子（早稲田大学大学院建築学専攻修士課程）

0S-9-3 高層病棟における避難安全対策の計画・評価・適用

野竹 宏彰（清水建設（株）技術研究所研究員）

0S-9-4 火災時の情報伝達を目的とした個別配信型避難安全システムに関する研究

その1 -建築物避難における一時待機時の不安感軽減を目的とした情報配信実験-

佐野 友紀（早稲田大学教授）

0S-9-5 火災時の情報伝達を目的とした個別配信型避難安全システムに関する研究

その2 -災害時要援護者を想定対象としたスマートフォンによる災害覚知支援実験-

遠田 敦（東京理科大学助教）

オーガナイズドセッション 9:30～12:00

0S-10

工学システムに対する安全目標のガイドライン

松岡 猛\*（日本学術会議第三部会員、宇都宮大学大学院工学研究科客員教授）

0S-10-1 安全目標ガイドライン

- 野口 和彦（横浜国立大学大学院環境情報研究院教授）
- 0S-10-2 各種基準データに基づく安全目標の考察  
松岡 猛\*（日本学術会議第三部会員、宇都宮大学大学院工学研究科客員教授）
- 0S-10-3 原子力分野の対応  
成合 英樹\*（日本学術会議連携会員、筑波大学名誉教授）
- 0S-10-4 化学プラントの対応  
中村昌允（東京工業大学）
- 0S-10-5 自動車交通の対応  
永井 正夫\*（日本学術会議連携会員、一般社団法人日本自動車研究所代表理事・研究所長、東京農工大学客員教授）
- 0S-10-6 船舶・海洋の対応  
田村 兼吉（独立行政法人海上技術安全研究所海難事故解析センター長）
- 0S-10-7 情報分野の対応  
坂井 修一\*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報理工学系研究科教授）
- 0S-10-8 機械安全の対応  
向殿 政男\*（日本学術会議連携会員、明治大学教授）
- 0S-10-9 労働安全の対応  
梅崎 重夫（独立行政法人労働安全衛生総合研究所機械システム安全研究グループ 部長）
- オーガナイズドセッション 14:30～17:00
- 0S-11  
それぞれのリスク管理  
本江 彰（日本ヒューマンファクター研究所研究主幹）
- 0S-11-1 病院のリスクマネジャー制度  
松永佳緒里（公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院医師）
- 0S-11-2 航空のリスクマネジメント  
田中 龍郎（全日本空輸総合安全推進室室長）
- 0S-11-3 電力会社のリスク管理  
田中 石城（日本ヒューマンファクター研究所研究主幹）
- 0S-11-4 原子力における根本原因分析  
塚原 利夫（日本ヒューマンファクター研究所取締役副所長・教育開発研究室長）
- 0S-11-5 地方自治体におけるリスク管理  
野村 信一（明石市役所総合安全対策局 安全管理担当課長）

0S-11-6 実際のなリスク管理とは

向殿 政男\* (日本学術会議連携会員、明治大学教授)

オーガナイズドセッション 15:20～17:00

0S-12 次世代ロケット開発動向および宇宙科学技術研究の今  
吉野 悟 (日本大学助教)

0S-12-1 イプシロンロケット試験機の飛行結果

清水 文男 (JAXA 宇宙輸送ミッション本部主任開発員)

0S-12-2 ADNの燃焼メカニズム

藤里 公司 (東京大学大学院)

0S-12-3 イオン液体試製に係る物性研究

松永 浩貴 (横浜国大学大学院)

0S-12-4 イオン液体推進剤の基礎物性評価

高橋 拓也 (日本カーリット)

0S-12-5 熱圏大気観測用トレーサ物質噴射装置の開発

羽生 宏人 (JAXA 宇宙科学研究所 (ISAS) 助教)

その他、一般セッションを9:00～17:00に開催。

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(\*印の講演者は、主催分科会委員)

## (提案 27)

公開シンポジウム「大学教育における社会福祉学分野の質保証－学士課程教育における社会福祉学分野の参照基準について－」の開催について

1. 主 催 日本学術会議社会学委員会社会福祉学分野の参照基準検討分科会
2. 後 援 日本社会福祉系学会連合
3. 日 時 平成 26 年 7 月 21 日 (月) 10:00～12:00
4. 場 所 大正大学 礼拝堂
5. 分科会等 開催予定

### 6. 開催趣旨

日本学術会議は、平成 20 年 5 月文部科学省高等教育局長から日本学術会議会長宛てに「大学教育における分野別質保証のあり方に関する審議について」と題する依頼を受けた。このため、日本学術会議は、同年 6 月に課題別委員会「大学の分野別質保証のあり方検討委員会」を設置して審議を重ね、平成 22 年 7 月に回答「大学教育の分野別質保証の在り方について」を取りまとめ、同年 8 月に文部科学省に手交した。この回答においては、分野別質保証にための方法として、分野別の教育課程編成上の参照基準を策定することを提案している。

これを受けて、社会福祉学分野の参照基準検討分科会が設置され、平成 25 年 7 月より、白澤政和（桜美林大学大学院老年学研究科）を委員長にして「学士課程教育における社会福祉学分野の参照基準」について検討を行ってきた。本シンポジウムでは、「社会福祉学分野の参照基準」の策定にむけて、多様な立場から意見を聴取し、今後の社会福祉系大学における学士教育の基盤と発展の可能性について議論し、「社会福祉学分野の参照基準」に生かしていくことを目的に開催する。

### 7. 次 第

総合司会 和気 純子\*（日本学術会議連携会員、首都大学東京人文科学研究科教授）

10:00～10:10 開催挨拶

白澤 政和\*（日本学術会議第一部会員、桜美林大学大学院老年学研究科教授）

10:10～10:30 分科会報告 「社会福祉学の参照基準案について」

岩崎 晋也\*（日本学術会議連携会員、法政大学現代福祉学部教授）

10:40～12:00 パネル・ディスカッション

司会 金子 光一\* (日本学術会議連携会員、東洋大学社会学部教授)

パネリスト

日本社会福祉系学会連合

日本社会福祉系大学経営者協会

社会福祉施設経営者協会

指定発言者

日本社会福祉教育学校連盟

日本社会福祉士養成校協会

日本精神保健福祉士養成校協会

11:50～12:00 まとめ・閉会挨拶

白澤 政和\* (日本学術会議第一部会員、桜美林大学大学院老年学研究  
科教授)

8. 関係部の承認の有無： 第一部承認

(\*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案28)

市民公開講座「ロコモティブシンドロームの予防と治療－軟骨障害から変形性関節症－」の開催について

1. 主催：日本学術会議 臨床医学委員会 運動器分科会
2. 共催：日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS)
3. 後援：中国新聞社
4. 日時：平成26年7月27日(日)14:00～16:30
5. 場所：中国新聞 大ホール (広島市中区土橋町7-1)
6. 分科会の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨

第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会のプログラムの一部として、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会の全面的協力のもとに、「ロコモティブシンドロームの予防と治療－軟骨障害から変形性関節症－」をテーマとして、市民公開講座を開催し、参加者の皆様にロコモティブシンドロームを防ぐ取組みについて理解を深めていただきたい。

8. 次第 (14:00～16:30)

開会挨拶

越智 光夫\* (日本学術会議連携会員 広島大学大学院医歯薬保健学研究院整形外科学教授)

講演

14:10～14:30

- 1) 安達 伸生 (広島大学医歯薬保健学研究院 整形外科学准教授)  
「どうすればいいの？高齢者の膝の痛み」(20分)

14:30～14:50

- 2) 安永 裕司 (広島県立身体障害者リハビリテーションセンター副所長)  
「大腿骨近位部骨折と変形性股関節症の予防と治療」 (20分)

14:50～15:30

- 3) 中村 耕三\* (日本学術会議連携会員 国立障害者リハビリテーション  
センターセンター長)  
「いつまでも歩けるために ～ロコモ対策～」 (40分)

15:30～16:10

- 4) 高橋 健 (元広島東洋カープ選手)  
「私の野球人生」 (40分)

閉会挨拶

越智 光夫\* (日本学術会議連携会員 広島大学大学院医歯薬保健学研究院整  
形外科学)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(\*印の講演者等は主催分科会委員)

公開シンポジウム「大学で学ぶ農学とは—学士課程教育における参照基準—」

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農学分野の参照基準検討分科会
2. 日 時：平成26年7月29日（火）13：30～17：00
3. 場 所：日本学術会議6階会議室
4. 分科会の開催：開催予定あり
5. 開催趣旨：

日本学術会議は、文部科学省高等教育局長からの「大学教育の分野別 質保証の在り方に関する審議について」と題する依頼を受け、平成22年に【回答】「大学教育の分野別質保証の在り方について」を公表した。また、農学分野においては、平成20年に【対外報告】「農学教育のあり方」を公表している。これらに基づいて、農学委員会・食料科学委員会合同農学分野の参照基準検討分科会では、学士課程教育課程における農学分野の参照基準について審議を行い、このたび「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 農学分野」（案）をとりまとめた。この参照基準は、農学に関連する学士教育課程を開設する大学において広く利用されることが期待される。本シンポジウムは、現案について日本学術会議内外から広く意見をいただき、議論を深め、「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 農学分野」に生かしていくことを目的に開催する。
6. 次 第：

13：30 開会の挨拶  
大政 謙次\*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13：35 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準  
北原 和夫（日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究科教授）

14：05 農学分野の参照基準検討分科会からの報告  
大政 謙次\*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

14 : 35 - 14 : 50 ( 休憩 )

14 : 50 パネルディスカッション

(司会) 小田切徳美\* (日本学術会議連携会員、明治大学農学部教授)

(パネラー)

清水 誠\* (日本学術会議第二部会員、東京農業大学応用生物科学部教授)

青木 一郎\* (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)

荊木 康臣 (山口大学農学部教授)

奥野 員敏\* (日本学術会議連携会員、筑波大学北アフリカ研究センター研究員)

鈴木 雅一\* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

政岡 俊夫\* (日本学術会議連携会員、麻布大学理事長・学長)

松本 宏\* (日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系教授、筑波大学アイソトープ環境動態研究センター長)

吉澤 緑\* (日本学術会議連携会員、宇都宮大学農学部教授)

鴨下 顕彦\* (日本学術会議特任連携会員、東京大学アジア生物資源環境研究センター准教授)

16 : 50 閉会の挨拶

清水 誠\* (日本学術会議第二部会員、東京農業大学応用生物科学部教授)

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

(\*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案30)

市民公開講演会「生存農学の基盤：地球環境の維持と安定的生産システム」の開催について

1. 主催：日本学術会議農学委員会、食料科学委員会、  
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所、三島市
2. 後援：財団法人遺伝学普及会、日本育種学会、日本大学
3. 日時：平成26年8月10日（日）13：30～16：30
4. 場所：日本大学三島駅北口校舎大教室（静岡県三島市文教町1-9-18）
5. 委員会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：  
地球上の人口は50年後に90億を上回り、その生活基盤である食糧の増産は大問題である。一方、地球温暖化による砂漠化、大洪水、大災害の頻発は人類生存の驚異となっている。地球と人類の安定的生存にとって食糧・エネルギー増産、環境保持は喫緊かつ不可分の課題であり、わが国は先進国の一員として、この問題に様々な方策で取り組み、具体的な解決策を提示していく必要がある。今回、日本学術会議農学委員会の市民公開シンポジウムでは、農学と生物学の各分野（農業経済学、土壌生産学、林学、畜産学、水産学、生物資源学）におけるこの問題への取り組みを報告、紹介したい。
7. 次第：（13：30 ～ 16：30）  
開会挨拶  
桂 勳（情報・システム研究機構国立遺伝学研究所所長）  
豊岡武士（三島市長）  
司会 倉田 のり\*（日本学術会議第二部会員、国立遺伝学研究所教授）  
  
講演  
1) 「明日の日本へ：日本学術会議活動の紹介（仮題）」

生源寺眞一\*（日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授）

2) 「日本と世界の安全のための農業問題：経済的視点（仮題）」

生源寺眞一\*（日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授）

3) 「生存農学の基盤1：食料・環境と土壌微生物（仮題）」

妹尾 啓史（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

4) 「生存農学の基盤2：林木生産・利用・循環システム（仮題）」

川井 秀一\*（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院総合生存学館学館長・特定教授）

5) 「生存農学の基盤3：水圏環境と生物資源（仮題）」

渡部 終五\*（日本学術会議第二部会員、北里大学海洋生命科学部教授）

6) 「生存農学の基盤4：畜産環境の問題点と今後（仮題）」

吉川泰弘\*（日本学術会議第二部会員、千葉科学大学危機管理学部教授）

7) 「遺伝学と農学：生物資源の利用（仮題）」

小原 雄治（日本学術会議第二部会員、国立遺伝学研究所名誉教授・特任教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（\*印の講演者等は、主催委員会委員）

(提案 3 1)

公開シンポジウム「学士課程教育における電気電子工学分野の参照基準案」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議電気電子工学委員会、電気電子工学分野の参照基準検討会分科会
2. 後 援： 電子情報通信学会、電気学会、計測自動制御学会、映像情報メディア学会、応用物理学会
3. 日 時： 平成 26 年 7 月 12 日（土）14:00～17:00
4. 場 所： 東京大学本郷キャンパス工学部 2 号館 4 階 241 講義室
5. 分科会の開催：電気電子工学分野の参照基準検討分科会を開催予定
6. 開催趣旨：  
学士教育の質保証のための電気電子工学分野の参照基準の原案がこのたび作成されたことから、大学や関連学会、産業界、学部教育に関心のある方々への開示と多様な意見を聴取し、議論を深めて参照基準の最終案に反映させていく事を目的として、公開シンポジウムを開催する。
7. 次 第：  
総合司会：津田 俊隆\*（日本学術会議連携会員、早稲田大学大学院国際情報通信研究科教授）

14:00-14:05 開会の挨拶

石原 宏（日本学術会議第三部会員、電気電子工学委員会委員長、東京工業大学名誉教授）

14:05-14:25 「大学教育の分野別質保証と参照基準」

北原 和夫（日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学科学教

育研究科教授)

14:25-15:10 「電気電子工学分野の参照基準案」

保立 和夫\* (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究  
科電気系工学専攻教授)

15:10-15:40 「産業界から：電気電子人材育成への期待」

久間 和生 (内閣府総合科学技術会議議員) (調整中)

15:40-15:50 (休憩)

15:50 -16:35 パネルディスカッション

・モデレーター：

保立 和夫\* (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究  
科電気系工学専攻教授)

・パネリスト：

井筒 雅之\* (日本学術会議連携会員、日本学術振興会サンフランシスコ  
研究連絡センター・センター長)

柴田 直\* (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、応用物理学  
会物理系学術誌刊行センター・専任編集長)

関連学会

苗村 健 (電子情報通信学会：東京大学大学院情報学環教授)

佐藤 之彦 (電気学会：千葉大学大学院工学研究科教授)

本多 敏 (計測自動制御学会：慶應義塾大学理工学部教授)

渡辺 裕 (映像情報メディア学会：早稲田大学大学院国際情報通信研  
究科教授)

16:35 -16:55 総合討論

16:55-17:00 閉会の挨拶

波多野 睦子\* (日本学術会議連携会員、東京工業大学大学院理工学研  
究科教授)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(\*印の講演者は、主催委員会・分科会委員)

## (提案 3 2)

公開講演会「日本とドイツの里地・里山の生物多様性・生態系サービス研究」の開催について

1. 主 催：日本学術会議統合生物学委員会・環境学委員会合同自然環境保全再生分科会
2. 共 催：ドイツ学術交流協会・福井県・若狭町・美浜町
3. 日 時：平成26年8月30日（土）13：30～16：30
4. 場 所：福井県三方青年の家（福井県若狭町鳥浜 122-27-1）
5. 分科会の開催：同日午前中に環境学委員会自然環境保全再生委員会を開催

6. 開催趣旨：

生物多様性条約第10回締約国会議（2010）において日本が提案した「SATOYAMA イニシアチブ」が採択されたことにもあらわれているように、伝統的な土地利用にもとづいて農業が行われる里地・里山やそれに類する世界の農業生態系の、持続可能な社会の構築に向けた重要性が認識されている。そのことと関連して、SATOYAMA（里地・里山）の生物多様性・生態系サービスの評価が重要な科学的課題の一つとなっている。

ドイツ連邦研究教育省は、そのような課題をいち早く認識し、日本とドイツの SATOYAMA の生物多様性・生態系サービスに関する研究プロジェクト（JAGUAR）を推進している。その研究サイトの一つとして取り上げられている福井県三方湖畔に、昨年、福井県は、福井県里山里海湖研究所を開設した。

自然環境保全再生分科会は、これまで、里地里山の生物多様性や生態系サービスに深い関心をもって活動をしており、その生態系サービスの一つである防災・減災に関する提言をまとめつつある。そこで、分科会のこれまでの活動を踏まえ、社会的にも注目度の高い新たな研究領域における研究の発展とその成果に関して研究者間のみならず住民や行政担当者などとも広く情報を共有する場とすることをめざし、本公開講演会を福井県の三方湖畔におい開催することを提案する。

7. 次 第：

- 13:30 あいさつと趣旨紹介 「自然環境保全再生分科会の活動と里地・里山の生物多様性・生態系サービス：生態系インフラストラクチャーに焦点をあてて」  
鷺谷いづみ\*（自然環境保全再生分科会委員長、日本学術会議二部会 員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
- 13:50 ドイツからの挨拶 アンドレアス・キルヒナー参事官（Andreas Kirchner）  
ドイツ大使館 科学課長
- 14:00 「ドイツの SATOYAMA の生物多様性・生態系サービス研究」シュテファン・ホーテス（Stefan Hotes） マールブルグ大学 特任研究員
- 14:20 「三方五湖の生物多様性・生態系サービスと自然再生」  
吉田 丈人\*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科准教授）
- 14:40 「ヨーロッパの生態系インフラストラクチャー研究」  
一ノ瀬友博\*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学環境情報学部教授）
- 15:00 休憩
- 15:20 意見交換（「福井県里地・里山研究所研究員の研究に向けた抱負」表明を含む）  
司会 鷺谷いづみ\*（自然環境保全再生分科会委員長、日本学術会議二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
- 16:25 福井県からのあいさつ 櫻本宏 福井県安全環境部長
- 16:30 終了

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（\*印の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「社会に対する若手研究者の責任—科学者倫理と若手研究者—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー委員会若手研究者ネットワーク検討分科会
2. 日 時：平成26年7月26日(土) 13:00～15:40
3. 場 所：大阪大学中之島センター
4. 分科会の開催：開催予定
5. 開催趣旨

近時、若手研究者と研究不正の問題が社会的関心を呼んでいる。若手研究者が社会的に活躍すると、若手研究者の社会に対する責任の問題も必然的に顕在化してくる。無論、科学者の社会に対する責任は、若手世代固有のものではない。固有科学者倫理の問題については、日本学術会議は、声明「科学者の行動規範-改訂版-」(平成25年1月25日)や、提言「研究活動における不正の防止策と事後措置-科学の健全性向上のために-」(平成25年12月26日)を公表し、科学者倫理の課題に取り組んできた。科学者倫理には、当然に研究不正の問題が含まれ、将来世代を担う科学者養成の過程で研究不正に対する意識を高め、それを防止するために若手研究者の倫理観向上を目指す必要性が認識されてきた。他方で、前出声明「科学者の行動規範」に示された科学者の行動規範等に関する調査は、若手の置かれている競争的環境や不安定な身分が倫理観の向上を阻害化しており、若手研究者固有の問題に取り組まずに科学者の行動規範だけを唱えても規範のみが空洞化するのではないか、という一部の懸念を紹介している。

こうした指摘を背景に、本シンポジウムは、若手研究者の置かれている状況と科学者倫理のあり方を若手自身が討論する場を提供する。無論、科学者倫理は、研究不正という問題に矮小化されず、社会と研究の目的・成果のあり方、科学者の社会に対する責任のあり方、といった社会と科学のあり方の内省を絶えず科学者に迫るものである。若手アカデミー委員会では、若手研究者問題に取り組むため、若手研究者ネットワーク検討分科会を設置し、当分科会において、分野を越えた日本初の

大規模若手研究者のネットワーク「若手ネットワーク」を構築した。本シンポジウムは、若手ネットワークを通して、より大局的に科学者倫理という具体的な課題に対する一般討論を行い、若手研究者と社会との関わりを再考することを目的としている。

## 6. 次 第

13：00－13：05

開会の挨拶

駒井 章治（日本学術会議特任連携会員、奈良先端科学技術大学院大学准教授）

13：05－13：45

講演

中村 征樹（日本学術会議特任連携会員、大阪大学准教授）

「科学者の行動規範と研究活動の不正行為への対応について（仮）」

13：45－14：25

八代 嘉美（京都大学准教授）

「再生医療研究と研究者倫理（仮）」

（休憩 10 分）

14：35－15：35

総合討論

15：35－15：40

閉会の挨拶

蒲池みゆき\*（日本学術会議連携会員、工学院大学教授）

司会

横山 広美\*（日本学術会議特任連携会員、東京大学准教授）

（\*印の講演者等は主催分科会委員）

(提案34)

公開シンポジウム「キャビテーションに関するシンポジウム（第17回）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議機械工学委員会
2. 共 催：日本機械学会，日本船舶海洋工学会，土木学会，農業農村工学会，ターボ機械協会，日本航空宇宙学会，可視化情報学会，日本流体力学会，日本フルード・パワーシステム学会，日本マシニングエンジニアリング学会，日本トライボロジー学会，日本原子力学会，火力原子力発電技術協会，火力原子力発電技術協会，日本混相流学会，日本ウォータージェット学会，日本生体医工学会，日本金属学会，日本材料学会，腐食防食協会，日本超音波医学会，日本ソノロジー学会，非線形音響研究会
3. 日 時：平成26年11月20日（木）～21日（金）
4. 場 所：東京大学生産技術研究所（〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1）
5. 分科会の開催：該当なし
6. 開催趣旨：

日本学術会議第3部（従来は水力学・水理学専門委員会）の主催により、これまで16回（昭和50年5月19日、昭和53年4月6日、昭和58年10月3,4日、昭和60年6月17,18日、昭和62年6月16,17日、平成元年6月13,14日、平成4年10月13,14日、平成7年12月1,2日、平成9年10月30,31日、平成11年11月4,5日、平成13年9月28,29日、平成16年3月18,19日、平成18年6月2,3日、平成20年3月19,20日、平成22年11月22,23日、平成24年11月23,24日）行われている。第2回以降は上記の学協会が共催しており、毎回100名程度が参加している。

今回は、キャビテーションに関連した論文の発表と討論を2日間にわたって行い、当該研究分野の知見を高める。
7. 次 第：プログラム（案）

11月20日(木)			
A室		B室	
13:00-13:10	開会の挨拶 岸本喜久雄* (日本学術会議第三部会員、東京工業大学 大学院理工学研究科教授)		
13:10-14:50	セッション A1	13:10-14:50	セッション B1
15:00-16:40	セッション A2	15:00-16:40	セッション B2
17:00-18:00	特別講演 講師 松本洋一郎* (日本学術会議第三部会員、東京大学理事・ 副学長) 「キャビテーションの医療応用 - 現状と今後の応用 - (仮 題)」		
18:15-19:45	懇親会		
11月21日(金)			
A室		B室	
10:00-12:30	特別企画 1 キャビテーション の数値解析・渡邊聡 (九州大学教授)	10:00-12:30	特別企画 2 キャビテーションの応 用・ 祖山均 (東北大学教授)
14:00-15:40	セッション A3	14:00-15:40	セッション B3
15:40-15:50	閉会の辞 シンポジウム実行委員長 加藤 千幸* (日本学術会議連携会員、東京大学生産技術 研究所教授)		

セッション A, B には、気泡力学、気泡流、流体機械のキャビテーション、翼・翼列、騒音、振動等を予定している。

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

(\*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案34-2)

公開シンポジウム「環日本海の文化交流」の開催について

1. 主催：日本学術会議第一部、金沢大学
2. 共催：金沢大学国際文化資源学研究センター
3. 後援：(公財) 日本学術協力財団
4. 日時：平成26年8月3日(日) 13時00分～17時00分
5. 場所：石川県政記念 しいのき迎賓館 3階 大学コンソーシアム石川  
セミナー室A  
〒920-0962 石川県金沢市広阪2丁目1番1号
6. 部会の開催予定： 開催予定あり
7. 開催趣旨

日本の国際交流は、朝鮮半島からの仏教伝来や、遣隋使・遣唐使を思い起こすだけでも、その表舞台はまぎれもなく環日本海であった。黒船来航以前は、日本海側一帯が「表日本」として、東アジア諸国間、諸地域間の政治・経済・文化の交流の拠点であり、玄関であり、顔であったと言っても過言ではないだろう。とりわけ日本の伝統文化の成立・展開は、「から船」(唐船、韓船)が往来する環日本海を舞台とした、東アジア地域に通底する海域交流の長大な歴史を抜きにして考えることはできない。そのような歴史的事情を十分に踏まえて、長いタイムスパンで環日本海域、特に中国、韓国、日本の三国間の文化交流を、古代から現代まで見渡しながら、今後の相互交流発展の可能性をも視野におさめた議論を行うために、考古学、歴史学、東アジア思想・文学、さらには映画などのポップカルチャーや異文化コミュニケーションを専門とする研究者および文化人を登壇者として迎え、環日本海域を代表する金沢の地において、第一部主催の夏季シンポジウムを企画するに至った。金沢大学に主催機関として参画していただき、かつ企画趣意に即して金沢大学国際文化資源学センターの共催を得る運びとなっている。また公益財団法人日本学術協力財団に後援機関として加わって戴く。具体的な報告内容とプログラムの詳細は以下の通りである。

## 8. 次第

13:00-13:10 開会にあたって

総合司会 野村 真理\* (日本学術会議第一部会員、金沢大学人間社会研究域教授)  
挨拶 山崎 光悦 (金沢大学長)  
大西 隆 (日本学術会議会長、豊橋技術科学大学長、東京大学名誉教授)

13:15-14:45 報告 (各30分)

趣旨説明 佐藤 学\* (日本学術会議第一部部長、学習院大学文学部教授)  
報告者 小島 毅 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授／中国思想文化)

演題「東アジアの海域交流と北陸の文化」

上田 望 (金沢大学人間社会研究域教授／中国文学)

演題「文化資源としての伝統芸能の可能性——日中両国の調査・保護活動の取組みから考える」

四方田犬彦 (京都造形芸術大学大学院客員研究員／映画史・比較文化)

演題「東アジア 伝統演劇とメロドラマ映画の諸相」

14:45-15:00 休憩

15:00-17:00 コメントおよび総合討論 (フロアーとの質疑応答を含む)

司会 鏡味 治也 (日本学術会議連携会員、金沢大学人間社会研究域教授／文化人類学)

コメンテーター (各20分程度×2=40分)

中村 慎一 (金沢大学副学長／中国考古学)

李 香鎮 (立教大学異文化コミュニケーション学部教授)

総合討論 (フロアーとの質疑応答を含む)

閉会のことば

大沢 真理\* (日本学術会議第一部副部長、東京大学社会科学研究所教授)

## 8. 関係部の承認の有無：第一部承認

(\*印の講演者等は、本部会委員)